



谷山悦子さん(右)と家族

畜産農家として一步一步着実に
豊岡農業スクール研修生
谷山悦子さん(37歳)九日市中町



本市では、新規就農者や農業後継者が就農に必要な農業生産技術と経営管理能力を習得できるように「豊岡農業スクール」を開校しています。

昨年7月、このスクールに、女性で初めて手を挙げたのが谷山悦子さん。また「畜産(但馬牛繁殖)」を希望した初めての研修生です。

もともと畜産に興味はあったが、牛に触れたこともない普通の主婦。市内の牧場で働きながら、独立就農を目指す夫の姿を見て、畜産の世界に飛び込みました。

現在では、研修受入農家の牧場で畜産技術を学ぶとともに、知り合いから牛舎を借り受けて、3頭の但馬牛を育てています。春には、手塩にかけた子牛の初出荷を迎えます。

市内の畜産農家戸数が減少を続ける中、谷山さんは「1頭1頭余裕を持って接すること、牛が訴えたいことに気が付きます。それが良い牛を育てること。ゆくゆくは、家族で規模を拡大できれば」と話し、豊岡の畜産業を支える立派な担い手になれるように頑張ります。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲約60年ぶりの雪乞い

神鍋高原降雪祈願神事
「雪よ降れ！」山々に響く祈りの声

1月7日、神鍋山山頂の神鍋神社で「降雪祈願神事」が行われました。

暖冬による深刻な雪不足に悩まされる神鍋高原。奥神鍋スキー場の人工雪コースは営業しているものの、他のスキー場では、ゲレンデを白く彩るのは、雪ではなく、春に咲くはずのスイセンの花。この異常事態を受け、昭和32年以来となる「雪乞い」を実施し、スキー場関係者ら約20人と「玄武岩の玄さん」が参加しました。

前回の「雪乞い」では、神事を行った後に雪が降ったことから、日高神鍋観光協会会長の小田根厚芳さんは「今回も同じように雪が降り、3月まで営業できるようになれば」と期待を込めます。玄さんも「一生懸命拝んだしけえ、絶対に降るぞ!」と皆を鼓舞していました。

豊岡子どもサミット
豊岡と沖永良部島の児童が交流会

1月9日、中筋地区公民館で、豊岡子どもサミット(主催：同サミット実行委員会)が開催され、中筋小学校6年生と沖永良部島(鹿児島県)の小学校5・6年生ら約70人が、お互いの住んでいる地域の価値などについて意見交換し、交流しました。

中筋の児童は「中筋の未来」をテーマに、コウノトリも住めるまちや伝統行事、集い、自慢の野菜について発表。沖永良部島の児童はトウギョ(環境省指定の絶滅危惧種の淡水魚)を増やすための米作りを、踊りを交えて発表しました。

ワークショップでは、米や野菜作りを盛んにするために「作り方を教えたり、農作物の大切さを伝えてはどうか」などと話し合いました。



▲中筋に暮らす価値を紹介